

カテゴリー： 歯内治療, その他

Key word : 歯内療法、自家歯牙移植

自家歯牙移植を行った症例

初診日： 2012年8月4日

治療終了日： 2013年3月25日

主訴： 右下の歯を噛むと痛い

治療方針： 自家歯牙移植

診断： 歯冠、歯根破折

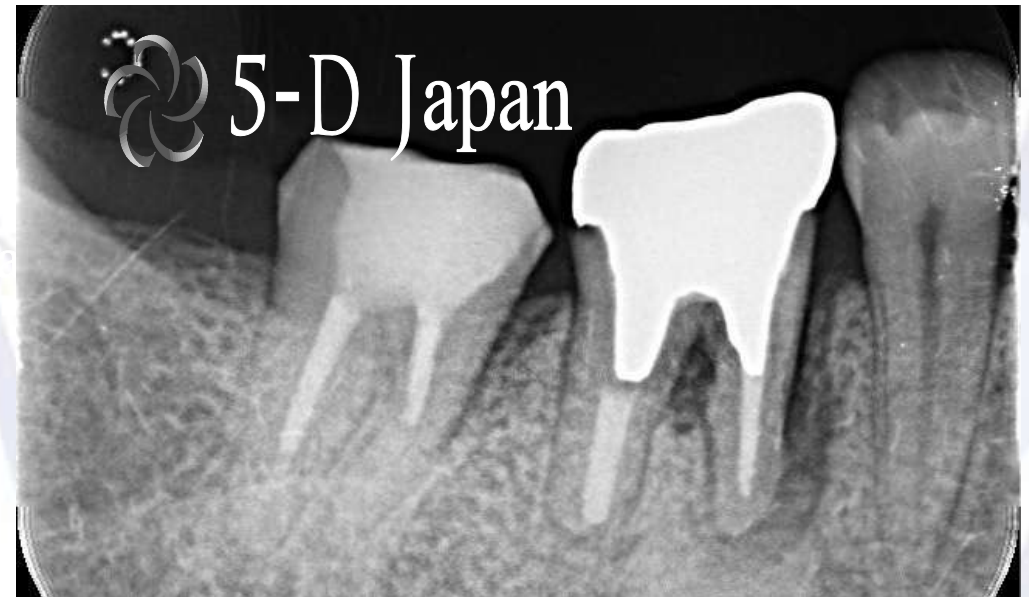
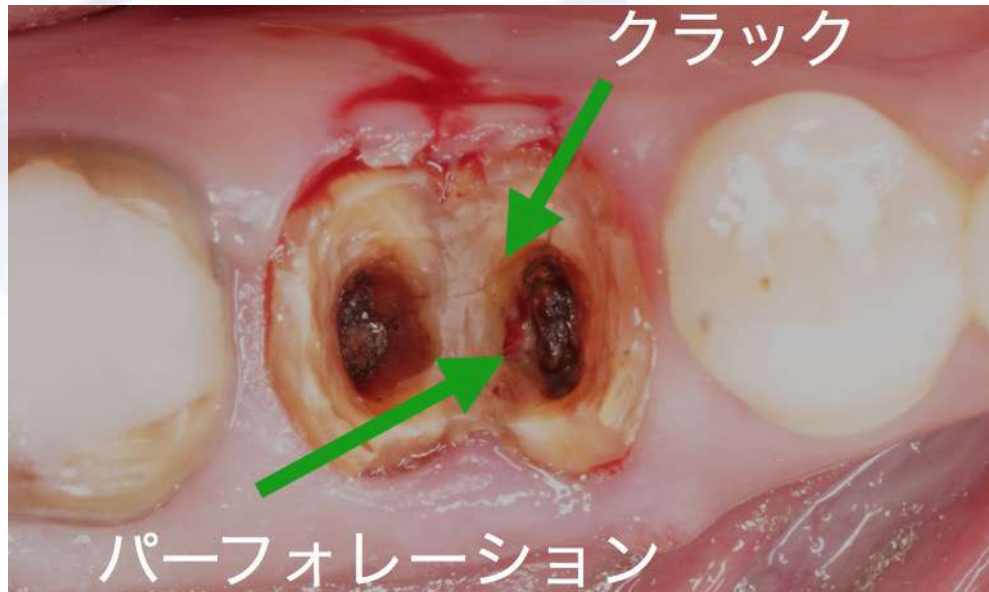
特記事項： 47が取れてからしばらく放置していた。
最近右下をかむと痛い

海谷歯科医院

海谷 幸利

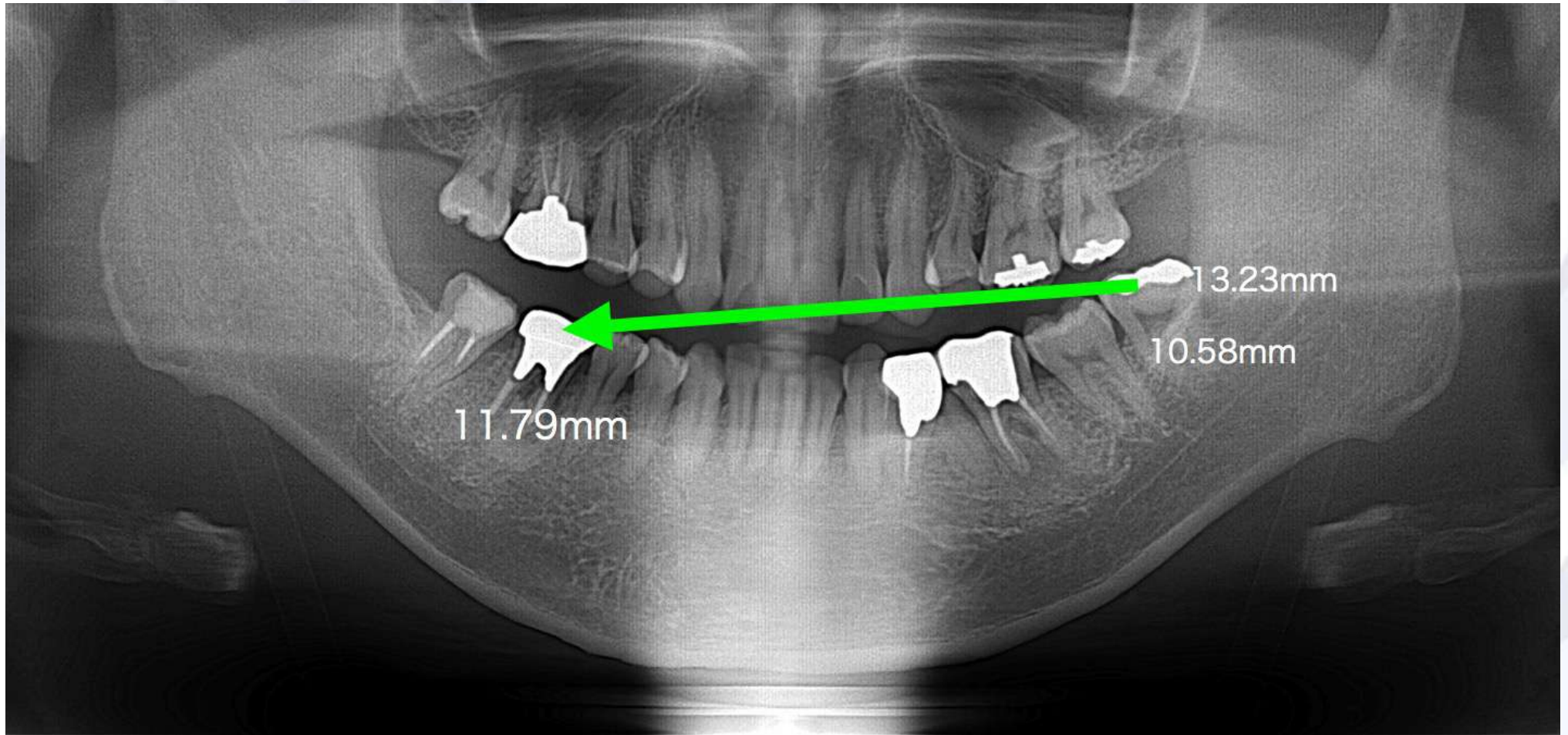


治療概要 患者の主訴が右下の咬合痛のためまずクラウン、コアの除去を行い原因の確認を行った。



近心根にクラックとパーフォレーションが確認できる

レントゲン上で陰影がみられる



治療計画は2つを考えた。ひとつは近心根を抜歯して⑥6⑤のブリッジ

または左下8を右下6に移植の計画 歯牙の幅径が問題だったが問題をクリアできることにより移植を選択した。

最終補綴物装着時もしくは、動的治療終了時



6の抜歯後ソケットの搔爬



38を46に移植



移植直後



術後2ヶ月のレントゲン写真



術後6ヶ月



術後6ヶ月のレントゲン写真

治療終了後の状態

治療終了後の口腔内写真



まとめ：

自家歯牙移植の適応年齢は40歳近辺である。

患者の年齢は38歳であった。

今回、近心根のみを抜歯しブリッジという選択肢も考えられたが右下5を切削するリスクを考えると長期的予後はあまりよくないのでは？と考えた。

それよりも左下8を患者の年齢も考慮し患部に移植を行ったほうが予後はよいのではないかと考えた。

ただ、より良いドナーの歯を考えると単根のものが望まれる。

左下5を移植も考えられるが、近遠心幅径を考えると左下8のほうがよいと判断した。

今回は複根の歯であったため分岐部の予後の観察が必要となる。

幸い今のところ予後は良好であるが今後も注意深く観察していこうと思う。